

vol.33 | 2015
SPRING

男らしさ、女らしさにとらわれず、自分らしく暮らせる社会。お互いに認め合い、個性と能力を發揮できる佐賀市の実現をめざしましょう。

Passport

佐賀市男女共同参画情報誌
ぱすぽーと

4・14 パートナーデーによせて 第10回 一言メッセージ表彰式が行われました！

主催：佐賀市男女共同参画ネットワーク



平成27年3月7日(土) 佐賀市立図書館にて

4月14日は 「パートナーデー」



感謝の心をあなたのパートナーへ...



佐賀市では、女性も男性も良きパートナーとして認め合い、いきいきと暮らすことができる社会をめざしています。

そこで、2月14日のバレンタインデー、3月14日のホワイトデーにちなみ、4月14日を、感謝の気持ちを伝える日「パートナーデー」としています。

パートナーデーに、家族や友人、職場の同僚など、日ごろお世話になっている人に感謝の気持ちを伝えてください。



C・O・N・T・E・N・T・S

- ひと ひと
平成26年度 女・男フォーラム
- 平成26年度 女性のための政策参画セミナー
- 第23回男女共同参画全国都市会議inやまぐち参加報告
- 第10回 一言メッセージ入賞作品
- 男女共同参画推進協賛事業所紹介

- p1
- p2
- p3~4
- p5~6
- p7

佐賀市男女共同参画課

平成26年度 女・男フォーラム

家事場の〇〇チカラ ~介護は突然やってくる~ 開催日：平成27年1月18日(日) 会場：ほほえみ館

少子高齢化が進む中、介護は誰もが直面する可能性があります。また、親の介護を理由に働き盛り世代が仕事を辞める「介護離職」が増えています。

介護する人も、される人も安心して暮らせる社会をめざし、「ワーク・ライフ・バランス～介護と仕事の両立～」についてフォーラムを開催しました。

第1部 基調講演

テーマ：「介護と仕事の両立について」

講師：太田 差恵子さん
(介護・暮らしジャーナリスト)



私(大江)と夫の両親は、病院に通うことはあっても幸いまだ自立した生活ができていますが、明日にも不測の事態が起こり、たちまち介護が必要になるかもしれません。知人やご近所の介護状況を見聞きしては「明日は我が身」と戦々恐々としていたので、本日は楽しみにしていました。

講師の太田さんは、20年にわたりこの分野で活躍されており、実に様々な介護の事例をご存知でした。まず最初にキツパリ、「介護はプロジェクト!」。「家族の気持ちだけではどうにもできない、ひとりで抱え込んではいけない、ビジネス感覚が大事」とのことでした。

まず状況を冷静に把握すること。誰がどのように困っているのか。家族はどのように手助けできるか、できないか(介護は20年、30年に

も及びこともあるので、無理は禁物)。そして、自治体や民間の介護保険や、その他のサービスの情報を集めること。資金のプランニングも大事(親のお金を使うことこそ、生きたお金の使い方)。

しかし、それらを円滑に進めるためには、なにはともあれ「対話」がとても大切とのこと。介護に携わる夫婦や家族でよく話し合い、支え合うこと。介護認定のために親の状態をしっかりと判断するのも、親の資金の確認ができるのも、対話があってこそ。地域の方との支え合いも、日頃のお付き合いがあるから、なんですね。

「あくまで主人公は親。親が望む暮らしを支えるために、一人だけが抱え込むのではなく、子、親族、地域の方、専門家、行政がチームを組み、対話のなかでお互いが納得できるようにしよう、完璧な介護が出来て人なんて誰もいませんよ」とおっしゃいました。

そのほか、介護休業制度や航空機の介護帰省割引制度、マイホーム借上げ制度など、役立つ情報も教えていただきました。

講話をお聴きして「その時」の覚悟が少し出来たように思います。今後介護に関わるようになったときも仕事を辞めずに両立できるように、情報を集めて備えておこうと思いました。そして、なによりも、「親や家族との普段のコミュニケーション」を大切にしたいと思います。

参加者の声 (大江 登美子)

- ・介護に対する考え方や対処の仕方を考えることが出来た。
- ・これから介護が始まるであろう者としての心構えが出来て良かった。



第2部 実践講座

テーマ：「介護の予防とコツについて」

講師：中西 美枝子さん (佐賀県在宅生活サポートセンター副所長)

何歳になっても、自分らしくいきいきと暮らすために、心身の老化を防ぐコツや認知症を予防するための生活習慣などについて教えていただきました。

ちょっとした体操や体の動きを普段から取り入れることが大事だなと思いました。(大江 登美子)

参加者の声

- ・介護予防のため、親も巻き込みやってみたいと思える体操だった。
- ・楽しく出来たので家族にも教えたい。



平成26年度 女性のための政策参画セミナー

女性の声を活かし、安心して暮らし続けることができる社会づくりをめざし、セミナーを開催しました。女性の意見が十分に反映されることは、個人の能力や個性を十分に発揮することができる「男女共同参画社会」の実現のために非常に重要な意味を持っています。

みんなでつくる「さがんまち」～わたしたちにできること～

主催：佐賀市、佐賀県立男女共同参画センター

第1回 テーマ：「身近なことから始める『政策参画』」

講師：池田 宏子さん (佐賀女子短期大学 非常勤講師)

開催日：平成26年10月31日(金)

会場：佐賀市立図書館

女・男ではなく、「人」として、まずは手を上げて「私」の意見を発信することが大切であり、それが政策参画の第一歩であると学びました。

自分の思いを自分の声で伝えるためには、「日常的に常に考える習慣をつけ、自分の考えをまとめることが肝要であること」、また、「様々な意見を聞くことが、自分の理論の欠点を見つけ、思考の幅を広げるチャンスであること」、「新しい考えへの変更を恐れないこと」など、アドバイスをいただきました。(草場 栄美)

参加者の声 ・感想や感情でなく意見を持つこと、意見が書ける習慣をつけることは大切だと思った。



第2回 テーマ：「ワタシを活かそう!参画のためのコミュニケーション」

講師：福成 有美さん (株式会社アテンド 代表取締役)

開催日：平成26年11月7日(金)

会場：佐賀市立図書館

参加者がグループに分かれて意見交換をし、「日常の疑問点」や「こうなったら良いな」といった、「これから佐賀市をどんなまちにしたいか」について、各々自由に模造紙に書き綴り、オープンにしました。参加者同士は初対面だったにもかかわらず、いろいろな意見が出て、とても盛り上がりました。

相手の意見を聞くことの大切さや、表現することの大事さを学ぶ有意義な時間となりました。(吉田 和子)

参加者の声 ・地域に持ち帰り活かしていきたい。
・これからの女性にとっても大切なことだと思う。



公開講座 テーマ：「あなたの一歩が、社会を変える～意思決定の場への参画～」

主催：佐賀市、佐賀県立男女共同参画センター、武雄市、鹿島市、玄海町、白石町

講師：白井 文さん (前尼崎市長、グンゼ株式会社取締役)

開催日：平成27年2月7日(土)

会場：ほほえみ館

「少しでも自分らしく生きるために、自分になにができるのか」、ご自身の経験を交えお話しいただきました。

市等の審議会等の委員では、全員、最初からしっかりと意見が言えるわけではなく、場を与えられることで経験を積み、さらに与えられた場で勉強することで、意見が言えるようになっていくのだから、ぜひ積極的に公募委員等に手を挙げてほしいとおっしゃっていました。

また、「自分が一歩踏み出したら、道は切り開かれていく。一歩を踏み出すためには、経験が勇気のひとつになるが、経験できることは限られているので、シミュレーションすることが大切。いろいろな出来事があったときに、自分だったらどう行動するか、考える習慣をつけることで、自分の引き出しが広がったり、深まったりする。」という言葉が印象的でした。(男女共同参画課)

参加者の声 ・仕事でぶつかっている壁をのりこえるためのヒントが見つかった。





「第23回 男女共同参画全国都市会議 in やまぐち」参加報告

平成26年11月13日・14日、山口県山口市で「第23回男女共同参画全国都市会議 in やまぐち」が開催されました。今回、市民代表として参加した中川知行さんと平川恵里さん、男女共同参画課 中島勇生の報告です。

◆基調講演：華房 実保さん (内閣府大臣官房審議官)

政府が実施している“女性の活躍推進”に向けた様々な取組について報告がありました。

都道府県別にみた女性の割合(総務省平成24年就業構造基本調査)が紹介され、佐賀県は、「有業者に占める女性の割合」が全国6位の45.7%(全国平均43%)、「管理的職業従事者に占める女性の割合」が全国16位の14.4%(全国平均13.4%)と、いずれも全国平均を上回っており、佐賀県の女性は元気で活躍していると言えるのではないのでしょうか。

一方、国際比較でみた日本の現状は、男女格差を表すジェンダー・ギャップ指数*では、142か国中「政治参画129位」「経済参画102位」と低い順位となっています。

“女性の活躍推進”が重要課題として位置づけられているということは、現状において、女性が活躍できていないということの表れかもしれません。性別にとらわれず、女性も男性も活躍できる男女共同参画社会の実現が急務であると感じました。

*ジェンダー・ギャップ指数(2014)

世界経済フォーラムが、各国内の男女間の格差を数値化しランク付けしたもの。「経済」「教育」「保健」「政治」の4分野でデータを算出し性別による格差を明らかにしたもの。格差が少ない国ほど、順位が高い。

◆記念講演：坂東 真理子さん (昭和女子大学理事長)

コミュニケーション能力「アサーティブ」という言葉が印象的でした。アサーティブとは、「言いたいことを正確に冷静に伝える技術、自己主張ではなく自己表現」という意味だそうです。坂東さんは、「伝えたい内容が伝わらなければ無駄である。相手に伝わるように表現することが重要であり、それが自己表現である。そして、コミュニケーションの手法としてまず「Yes」と相手を受け止めた上でポジティブな表現で事実を伝えコミュニケーションする必要がある。」また、「仕事においても、育児においても、女性だからということで甘えてはいけません。苦しいときに頑張ることが人間としての成長につながる。」と話されていました。

コミュニケーションとは相手に自分をどう表現するのかが問われているのだと考えさせられました。“個性と能力を十分に発揮する”“自分らしく生きる”ためには、当然ながら相応の責任を担わなければならないことを改めて認識させられました。

◆分科会 報告1

男女(ともに)に創る未来のかたち ～意思決定はフィフティ&フィフティ～

私が一番興味を持ったのは、TOTO 株式会社人財本部人財部長の「女性の管理職への登用」についての話でした。TOTO では女性を管理職へ登用するまでにキャリア支援を設け、マネジメントの仕方、部下とのコミュニケーション方法などを身につける過程を経た上で、管理職に登用するかどうか本人の意思も含め検討する、という一連のプランがあるそうです。この育成過程が生まれたのは、“女性管理職を増やすため”に管理職に女性を登用する、あるいは役職を作って女性を登用するという方法を試みた結果、管理職としての意識や経験が少ないことから、そのポストから離れてしまうという出来事があったからだそうです。

話を伺ったのは、女性管理職育成のために作られたキャリア支援ではあるが基本的に男性管理職を育成する際にも機能するのではないかとということです。内容を伺った限りでは女性に特有のキャリア支援というよりも、管理職としてのスキルを身につけるプログラムになっているように思いました。ここからは私の推測ですが、キャリア支援を作る際に管理職として具体的にどのような能力が必要かが改めて考えられたと思います。そして、この過程で男性管理職の育成プランも見直されたと思います。なぜなら管理職のスキルと性別は無関係だと考えられるからです。私がここで言いたいのは、女性の人材育成を考えることで、結果的に管理職となる個人の能力が育成されるキャリア支援が出来上がったのではないかとということです。

女性を女性として考えるのではなく、一個人として考えることで一個人としての男性を考えることにもなると思っています。育児と仕事の両立は男性にとっても切実です。女性のワーク・ライフ・バランスを考えることは男性のワーク・ライフ・バランスを考えることにもつながります。

男女共同参画とは男性、女性とともに性別に関係なく、個人としてよりよく生きるために必要な視点だと思います。

(中川 知行)

◆分科会 報告2

男女(ひと)がイキイキと活躍できる職場づくりに 向けて、行政、企業、地域は何ができるか? ～ワーク・ライフ・バランスの視点から～

グループに分かれ、いくつかのテーマについてワークショップ形式で意見交換をしました。

『出産・育児と職場』というテーマでは、「共働き夫婦に第2子ができ、妻は仕事にやりがいを感じているため、出産後も仕事を続けたいと考えている。しかし、会社は小規模で育児休暇を取得した場合に代わりを務めてくれる人材もおらず、育児休暇を取得することに経営者が難色を示している。妻が育児休暇を取りやすくするにはどのような施策が必要か。」というものでした。

これに対して、企業の大小を問わず、経営者の意識改革が必要であり、これは地方公共団体などが、経営者協会などの協力を得て、勉強会・講演会を行い、根気強く研修をすることにより対応することや、トヨタ生産方式のように多能工化することにより、育児に限らず急な欠員に対応できるように、日頃から業務をマニュアル化するなど、企業としてのリスクマネジメントが重要だという意見ができました。

(平川 恵里)

◆分科会 報告3

少子化を食い止めるために ～行政にできること、私たちにできること～

少子化に対する自治体や団体の取組みの具体例について報告がありました。市民のボランティア参加と婚活を組み合わせた事業など、それぞれ工夫しながら実施されており、大変参考になりました。

少子化対策は、どの地域においても重要な問題であり、雇用の確保や子育てしやすい環境の整備、婚活支援など、多岐に渡ります。しかしながら、結婚や出産は個人の自由であり、誰にも強制されるものではありません。今後、様々な角度から少子化対策が行われると思いますが、“個人としての尊厳を重んじる”という男女共同参画の理念に反することがないように、注意して対応していく必要があると思います。

(中島 勇生)

全国都市会議に参加して

日本では、男女雇用機会均等法や、育児・介護休業法など法律は整備されてきましたが、こうした制度は、男性の働き方をモデルとして「働く女性」をそこに近づけていくという発想です。日本の男性の働き方は、他の先進国に比べ、そもそも特殊なので、そのスタイルを、

育児や家事を担っている女性に踏襲させようとしても困難だと思います。私は、やはり、男性の働き方を変えることが最重要課題だと考えます。まずは、男性の働き方を見直し、男性が仕事をしながらも家庭参画することで、女性の家族的責任の負担を軽減させる必要があります。

そのためには、企業において、日々の働き方の見直しが可能で制度を拡充するとともに、女性だけでなく、男性も制度を利用しやすい環境をつくらなくてはなりません。

ワークショップでは、管理者、経営者の「意識改革」と言う言葉をよく耳にしましたが、長い間、日本は男性社会が続いてきたため、それによる慣習の弊害もあります。難しいのは、人間の意識はなかなか変化しないことです。少しずつ変えていかなければなりません。しかし、現在、日本の社会は大きく変わりつつあり、そのような時は、従来のような考え方が通用しなくなる時でもあるので、今がチャンスかもしれません。

少子高齢化の社会を考えると、今後、経済的にも女性の労働力の活用は必要であり、また、女性だけでなく、男性も含め、個人の希望がかなえられ、働く意欲を持つ人が働ける社会の実現をめざすことが重要です。すべての人が、よりよい生活、人生を送れるようにもっと社会支援も必要と考えます。また男女の相互理解と、男女が共に協力しあうことが大事だと考えます。

「女性が輝く市 全国NO.1」をめざし、佐賀市で働く一人の女性として、誇りをもって、未来の子供たちのためにも、働き続けながら、男女共同参画社会への貢献ができれば良いと考えています。

(平川 恵里)



中川知行さん(左) 平川恵里さん(右)

第10回 一言メッセージ入賞作品



「誰がする」「今日の仕事は、僕がする」

母へ 佐賀大学附属中学校2年 平野 公史郎

姉と妹がいますが、毎日3人で話し合っ、洗濯物をたたんだり、風呂掃除をしています。これからも続けていきたいです。



男女共同参画をめざす中で、家庭、職場、学校、地域などで抱く「感謝の気持ち」や「おやつと思うこと」「ちょっと気になるなあという思い」を表したメッセージを募集しました。4,334件もの作品の応募の中から、入賞された作品を紹介します。(学年は平成26年度現在)

主催:佐賀市男女共同参画ネットワーク



貴女が赤ちゃんの時、育児に参加できずゴメン! 今「育じい」で楽しい参加です。

娘へ 島ノ江 修治

保育園や小学校が休みのときは、妻と一緒に孫をみています。今日(表彰式の日)も午前中は孫と遊んできました。孫と過ごすのも私の楽しみのひとつになっています。



こどもの部

- ◎味の素賞
男たち料理や家事とかしてみんしゃい。
女の苦勞を分かり思いやりをもつべき
父、弟へ 佐賀大学附属中学校2年 中野 初音
- ◎有明佐賀空港賞
電車に乗って朝から働いている普通のサラリーマン
でも僕にとってはヒーローだ
父へ 成章中学校1年 大串 啓太郎
- ◎いしむら高木瀬店賞
いつもトイレのスリッパをならべてくれてありがとう。
今度からならべるよ。
友だちへ 高木瀬小学校3年 森田 麗翔
- ◎板前割烹 香光賞
お偉いさん いつまで経っても男かな?
平等性はあるのかな?
職場の皆さんへ 佐賀大学附属中学校2年 宮原 颯大
- ◎ガラス工房ダンダン賞
いつも道路に立っててくれて、うれしいです。
ぼくのあいさつはとどいていますか。
地域のみなさんへ 兵庫小学校5年 森永 万寛
- ◎ガラス工房ダンダン賞
しょうゆ造りのお父さん。新商品を開発中。
家族みんなで応援フレーフレー
お父さんへ 春日小学校6年 築貫 成亜
- ◎北島マルボー口賞
パツクリと割れてる指を助けるために、
できるだけの水仕事、代わりにやるぞ!
お母さんへ 中川副小学校6年 光吉 沙織
- ◎九州グリコ賞
私ももうすぐ二年生 ほうちよう、はりも使わせて!
お手伝いできるんだからね。
おかあさんへ 循誘小学校1年 松永 彩鈴

- ◎佐賀共栄銀行賞
学校のふれあい活動。どこの家族もお母さんが来てる。
お父さんも来てみる?
お父さんへ 成章中学校1年 中島 優梨
- ◎佐賀玉屋賞
台所いつもいるのは母親で
なんでできまっているのだろう?今はイクメンパパ。
父へ 佐賀大学附属中学校2年 小林 良太郎
- ◎「道の駅」大和そよかぜ館賞
いつものんびりしているお父さん。
一緒に家事を手伝わなくていいのかな?
お父さんへ 成章中学校1年 西川 賢佑
- ◎ぶんぶんテレビ賞
じゅん子先生のキラキラえがおが大好きです。
スペシャル花まるうれしいな。
先生へ 開成小学校2年 松本 侑子
- ◎村岡屋賞
あかあおきいろのインクがついたさぎょうぎは、
今日にもじいろみただよ。
おとうさんへ 諸富北小学校2年 野田 真登

高校生の部

- ◎板前割烹 香光賞
1人暮らしで何食べているのかな。
たまに作ってあげたい俺の手料理を。
兄へ 牛津高校2年 永田 裕馬
- ◎西島皮膚科医院賞
最近、二人とも向き合ってるのは電子機器。
たまには一緒に笑って話そうよ。
妹へ 龍谷高校1年 龍 愛里彩
- ◎森永歯科クリニック賞
ありがとう。キッチンと向き合う大きな背中。
今を支える男飯。
お父さんへ 牛津高校2年 中尾 光希

大人の部

- ◎藍染未来工房賞
「いたづら孫は誰の子かい」嫁の答は「ばあちゃんの孫よ。」
うふふ。子育て楽しかね。
嫁へ 木塚 壽子
- ◎板前割烹 香光賞
俺一人、あなた一人じゃだめなんだ
二人そろって朝の散歩
妻へ 大庭 則夫
- ◎北島マルボー口賞
表情、仕草。ささいな事に気づき声をかけてくれる
仲間は一生の宝物。
友人へ 洞ノ上 雄太
- ◎佐賀花市場賞
家事全般得意なのは分かります。
私より下手だと時には芝居して!でも感謝です。
夫へ 松永 千栄
- ◎サガ・ピネガー賞
「一緒に入ろう」娘の声にホッとするあなた。
もう少し聞けるね 風呂からの笑い声。
夫へ 江頭 美里
- ◎のり道楽賞
空っぽになった弁当が君のがんばりしめしてる
さあ 今日元気に行ってい!!
毎日がんばる息子へ 田中 みさ子
- ◎J Aさが中部地区賞
異国で働くあなたは、私達家族の励みです。
日本の良さを思いながら頑張っ!!
海外で働く娘へ 下平 香織
- ◎肥前びーどろ賞
宇宙行きより厳しい西アフリカの任務終え
無事帰国を笑顔で握手出来ます様に。
感染研のスタッフへ 島田 君子
- ◎ビューティックニ葉賞
スマホもいいけど、たまには直接言おうかな。
いつもありがとう、お母さん。
母へ 古賀 彩花
- ◎古湯温泉 鶴霊泉賞
骨折して 夫の優しさが身にしみて
もうこれから甘えていいんですよね お父さん
夫へ 古賀 三保子

- ◎村岡屋賞
同居の君達に感謝。海パンで風呂掃除を
手伝う双子の孫も楽しいパートナーだ。
二男夫婦と孫2人へ 西牟田 勲
- ◎森の香 菖蒲ご膳賞
型もさまざま不揃いのあなたの手作り餃子の
味は最高! 週一回の夕食のご馳走。
夫へ 大串 千和子
- ◎大和酒造賞
"愛してる"今更言えない恥ずかしさに
"アイシテ"
"ICT"に"る"を添え、メール送信。読んでみて!
妻へ 江口 浩文
- ◎理研農産化工賞
言うたはず聞いとらんよのやりとりも
段々笑えるように成長してきたね。
妻へ 小池 康雄
- ◎理研農産化工賞
妻には、健康体操させるのに あなたは、口だけ
一緒に頑張ろうよ お父さん
夫へ 釘本 節子

特別賞

相聞メッセージ

- 傘寿越え見上げる八十歳坂
これからも仲良く米寿まで歩こうよ。
妻へ 久野 久義
- ありがとうねえ。杖さえて持てばこんなに歩けるよ、
ほら、爺ちゃん見てくれん。
夫へ 久野 ハツネ
- お母さんそがん気張らじよか、ぼちぼちせんね。
さあ お茶でも飲んで一休み一休み
妻へ 嘉村 正司
- 連れ添い四十五年のうちには、たびたび衝突もしたけど、
今はべた風で幸せですよ。
夫へ 嘉村 ミツヨ

男女共同参画推進 協賛事業所紹介

市とともに男女共同参画の推進に積極的に取り組んでいただいている協賛事業所を紹介します。(五十音順)

栗林歯科医院 医療業



女性ばかりの従業員なので、気兼ねなくお互いの都合を話し合って勤務シフトを組んでいます。特に子どものいる従業員は、子どもの状況(学校行事、急病など)に応じて休暇をとらせ、短時間勤務にしています。

患者様が小さなお子様を連れてこられても女性従業員がそのお子様を見るようにしていますので、安心して御来院ください。

株式会社電興社 設備工事業



設備工事業ですので、現場への往復も含め拘束時間が長いですが、会社として家事・育児、近隣との付き合いなども必要と考えていますので、育児・介護休暇制度の導入はもちろ

ろ、現場への直行・直帰をできるようにしてワーク・ライフ・バランスをよりうまくできるように取り組んでいます。

中牟田デンキ 家電販売・修理業



少人数の小さな“町の電器屋”です。

取り立てて紹介する程の取り組みをしている訳ではありませんが、少人数だから出来る事かと思いますが、当店ではお昼ごはんをみんなで食べています。健康に気を配り、野菜中心の食事をと心掛けて作っています。小さな事ですが、これにより意思の疎通がとれ、男女、仲良く仕事が出来ています。

日本住宅設備株式会社 設備工事業



住宅設備関連の仕事をしています。

仕事と家庭生活や地域活動のしやすい環境づくりと、働きやすい職場環境を目標に日々頑張っており、また、職場でのレクリエーションは毎年欠かさず行っています。

男女とも、働きやすい環境にするため、これからも取り組んでいきたいと思っています。

協賛事業所 募集中!

担当: 佐賀市男女共同参画課
電話: 0952-40-7014
FAX: 0952-29-2095

事業所での男女共同参画の推進は、従業員の意欲向上や事業所のイメージアップに繋がります。協賛事業所では、ワーク・ライフ・バランスなどをテーマにした研修会への参加、家庭や職場などで日ごろお世話になっている人に感謝の気持ちを伝える日「パートナーデー(4月14日)」の従業員の方への周知など、男女共同参画への理解を深める活動を佐賀市と共に行っていただいています。

編集後記

佐賀県立男女共同参画センター(アバンセ)と共催で開催した「女性のための政策参画セミナー」では、自分の意見を自分の言葉で伝えること等について学んでいただきました。

セミナー終了後、審議会等に参画してみようと考えていただいた方もおられ、今後、さらに様々な分野で女性の意見が反映されることを願っています。

編集委員 大江 登美子・岡本 ゆかり・草場 栄美
園田 恭子・中溝 末大・吉田 和子

※編集委員は、市民の方にご協力いただいております。

「ぱすぽーと」に関する
ご意見・ご感想をお寄せください

発行

佐賀市 男女共同参画課
〒840-8501 佐賀市栄町1番1号
【TEL】0952-40-7014
【FAX】0952-29-2095
【URL】<http://www.city.saga.lg.jp/>
(佐賀市役所HP)
【E-mail】danjokyodo@city.saga.lg.jp